



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2021年10月10日(日) 9:30~12:00(曇り)

参加者 一般:9名(うち中学生2名)

指導員:6名

テーマ 赤トンボはいるかな

秋が深まり、近くの水田でも少数ながらアキアカネの産卵が見られるようになりました。そこで、今回は赤トンボ探しです。

高校の理科の教師4名が参加され、久しぶりに参加者が10名を超えました。

南派川の流量は減っていましたが、護岸近くには水溜まりが残り、そこで赤トンボが連結産卵をしていました。メスの翅の先端に褐色の斑紋が見えたということで、マユタテアカネです。このトンボの産卵を見たのは初めてですが、アキアカネと同じように打泥(今回は水面を打つ打水)産卵でした。その水辺近くにマユタテアカネの卵が止まっていたので、捕獲して顔面の眉状の斑紋や、尾部上付属器が上に反り返っていることを確認しました。10/6の下見ではアキアカネらしいトンボが葉の落ちた桜の枝に数頭ずつ止まっていたので、この日も出現するかと期待したのですが、残念ながら見られませんでした。気象条件や時間帯で居場所が変わるためか、それとも個体数が少ないためか、うまく探し出すのは難しいようです。

川原では足元から飛び出したトノサマバッタやヒナバッタを捕獲して観察しました。

植物はというと、堤防付近は草刈りがされて観察対象の多くが消失していました。それでも、キダチコンギク、アカネ、ネナシカズラなどが見られ、大野極楽寺公園近くではウリクサの薄紫の小さな花を初めて確認できました。また、味わったことがないという参加者が多かったのでヌルデの実を口に含んで塩味と酸味の混じった微妙な味を体験してもらい、ムクノキの黒紫色に熟した実も試食してもらいました。食べ頃のアケビの実もいくつかありましたが、木の枝に絡まって高い位置にあり、こちらは目で鑑賞しただけでした。(報告:齋竹)



(川原でバッタを観察)

<その他観察できたもの>

虫:ウスバキトンボ、シオカラトンボ、ナミアゲハ、キタキチョウ、モンキチョウ、ヤマトシジミ、ウラナミシジミ、ウラギンシジミ、ツマグロヒョウモン、キタテハ、ホシヒメホウジャク、コイチャコガネ、イボバッタ、サトクダマキモドキ、エンマコオロギ、アオマツムシ(声) 鳥:トビ、キジバト、ヒヨドリ、モズ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ムクドリ、ハシボソガラス、シジュウカラ(声)、コゲラ(声)

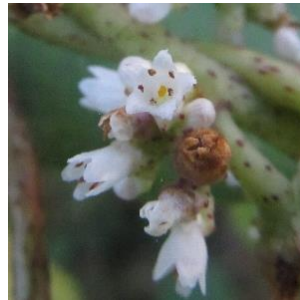
その他の動物:ウシガエル、アメリカザリガニ 花:セイタカアワダチソウ、ヒメムカシヨモギ、コセンダングサ、コバノセンダングサ、ヒナギキョウ、オオフタバムグラ、メリケンムグラ、アレチハナガサ、ホシアサガオ、マメアサガオ、キツネノマゴ、アレチヌスビトハギ、ヌスビトハギ、フジカンソウ、ヤブマメ、ミソバ、ヒガンバナ、チャ



マユタテアカネ♂



ヒナバッタ



ネナシカズラの花



アケビの実